

日本周産期・新生児医学会 第43回周産期学シンポジウム演題募集要項

テーマ：周産期の鎮痛・鎮静・ストレス軽減を再考する

演題募集

第43回周産期学シンポジウム(2025年1月開催)につきまして、テーマを「周産期の鎮痛・鎮静・ストレス軽減を再考する」として演題を募集いたします。なお、今回は医療従事者のストレス軽減は対象としません。

周産期医療では、鎮痛・鎮静は生体に対する有害な侵襲によるストレスを除く目的で日常的に行われている医療行為で、欠かせないものです。

例えば産科領域では、無痛分娩が循環器疾患や脳血管疾患合併妊娠など医学的適応のあるハイリスク母体のみならず、少子化を背景にローリスクの分娩でも普及しつつあります。産科麻酔領域の重要性も近年広く認識されるようになり、帝王切開時の麻酔、胎児治療時の麻酔についても技術や実施体制は今後も進歩、深化していくことは明らかなです。母体に投与された薬剤の胎児・新生児への短期・長期的影響についても注目されるどころです。分娩後、帝王切開術後の鎮痛は産褥のQOLに関わる問題であり、診療科の領域を超えた議論が必要です。

新生児領域では人工換気、補助呼吸管理や処置・検査時の鎮痛・鎮静、これらは生体に対する有害な侵襲によるストレスを除く目的で日常的に行われている医療です。NICU・GCUは新生児にとっての養育環境でもありますが、児にとってストレスの多い環境でもあり、有害な痛みやストレスを管理することは、直接的あるいは長期的により良い医学的、神経発達のアウトカムにつながるという認識が高まっています。これらは必ずしも薬剤投与をとまなうものとは限りませんが、超早産児などでは長期の管理になることも問題点です。

新生児・乳児の外科的治療についても、近年は内視鏡手術が広まりつつありますが、児にとって真に低侵襲な手術であるかの検証が必要です。また、昨今、新生児期の手術など、ストレスを受けた児に対する長期的な身体的、精神的影響なども注目されています。手術時の麻酔、術後鎮痛・鎮静の方法も変わりつつあります。また、より良い母児の転帰、より高い患者・家族の満足を得るためには技術面のみならず、多職種の間わりということから実施体制、チーム医療、医療安全、教育の視点からの議論も望まれます。医療の個別化という観点も大切です。

過去には2011年の第29回周産期学シンポジウムで「周産期における鎮静・鎮痛・麻酔(母体の麻酔/胎児・新生児の麻酔と鎮静)」として同様のテーマが採りあげられました。以降十数年が経過し、この領域における研究は発展し新しい知見が得られています。そこで「鎮痛・鎮静・ストレス軽減」という切り口から、領域横断的、多角多面的に検討して頂くために企画いたしました。新規性のある多数の演題応募を期待しております。

キーワード

鎮痛、鎮静、ストレス、QOL、無痛分娩、産科麻酔、計画分娩、分娩誘発、補助経膈分娩、吸引・鉗子分娩、硬膜外鎮痛法、自己調節硬膜外鎮痛(Patient Controlled Epidural Analgesia: PCEA)、脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔(combined spinal-epidural anesthesia: CSEA)、傍頸管ブロック、帝王切開、緊急帝王切開術、術後鎮痛、分娩後鎮痛、子宮弛緩、胎児手術、胎児麻酔、胎児緩和ケア、早産児の鎮痛・鎮静、授乳、母乳育児、NICUのストレス環境、デベロップメンタルケア、NIDCAP(Newborn

Individualized Developmental Care and Assessment Program)、ファミリーセンタードケア、面会、オンライン面会、Skin-to-skin contact (SSC)、カンガルーケア、足底採血、採血用デバイス、自動型ランセット、静脈穿刺、動脈穿刺、皮下注射、筋肉注射、腰椎穿刺、胸腔穿刺、眼底検査、胃管挿入、尿道カテーテル挿入、超音波検査、気管挿管、人工呼吸管理、非侵襲的呼吸管理、採血時のケア、痛みのケア、緩和ケア、非薬理的緩和法、痛みの測定ツール、NIPS、PIPP、日本語版 PIPP、PIPP-R、FSPAPI、N-PASS、バイタルサインズ、痛みの記録、痛みのケアの記録、Swaddling、包み込み、Facilitated Tucking (FT)、Non-nutritive-sucking (NNS)、ショ糖口腔内投与、手術侵襲、内視鏡手術、低侵襲手術、外科手術と長期的影響、麻酔、麻酔導入、迅速導入、麻酔薬、鎮痛薬、鎮静薬、局所麻酔薬、麻薬、筋弛緩薬、薬効動態、生体モニタリング、胎児モニタリング、胎児心拍数陣痛図、術中モニタリング、非侵襲的モニタリング、遠隔モニタリング、医療安全、身体抑制、診療科連携、多職種連携、個別化医療、チーム医療、教育、シミュレーション、医療連携

応募要項

1. **応募書類**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書*」の3点です。下記URLよりデータをダウンロードしてください。

- 1) 応募用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/oubo_43.xlsx
- 2) 抄録用紙：http://www.jspnm.com/syukai/doc/syoroku_43.xlsx
- 3) 発表者の利益相反自己申告書：<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.docx>
<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rsj2A.pdf>

(Word版にてフォーマットが崩れる場合は、PDF版をご利用ください)

*利益相反指針及び指針細則は以下のURLを参照ください。

<https://www.jspnm.com/aboutgakkai/pdf/rss190816.pdf>

2. 応募演題の注意点

- 1) 同一施設からの応募数に制限はありませんが、同一応募者は複数の演題を応募できません。
 - 2) 応募者は単名に限ります。非会員の場合は、発表時に会員であることが必要です。なお、共同研究者等の名前を示す場合は、演題発表の際に謝辞等として示してください。
 - 3) 過去に周産期学シンポジウムで応募演題を2回以上発表した方は演題応募できません。
 - 4) 前向き・後ろ向き研究に関わらず、応募には施設の研究倫理審査委員会・Institutional Review Board等への申請が済んでいることが必要で、最終選考（2024年6月予定）までに承認が必須です。
3. **応募方法**：「応募用紙」「抄録用紙」「発表者の利益相反自己申告書」を、E-mail の添付文書として学会事務局宛、件名は「第43回周産期学シンポジウム応募演題」として送信ください。

4. 応募用紙

- 1) 下記【「応募用紙.xlsx」への入力についての注意】に沿って作成ください。
- 2) 応募用紙のファイル名は「発表者名-応募用紙.xlsx」としてください。

5. 抄録本文

- 1) 抄録本文は、目的～考察：1,600字以内＋今後の研究計画（シンポジウムでの発表までに実現可能な内容）：200字以内（文字数厳守）、図表不可とし、MS Excel形式で保存してください。
- 2) 文字数のカウントは、それぞれの枠下に返された数とします。
- 3) 目的、方法、結果、考察、今後の研究計画の順に記載ください。
- 4) 個人情報や生命倫理等、特に倫理的配慮を必要とする研究である場合は、行った具体的配慮について記載ください。
- 5) 抄録本文のファイル名は「発表者名.xlsx」としてください。

6. 発表者の利益相反自己申告書

- 1) 【利益相反に関する自己申告書の提出】に沿って作成ください。
- 2) 利益相反自己申告書のファイル名は「発表者名-利益相反.docx（または.pdf）」としてください。

7. **演題送信先**：info@jspnm.org（日本周産期・新生児医学会事務局）

8. **応募締切**：2023年10月2日（月）13:00 厳守

9. **問合せ先**：日本周産期・新生児医学会事務局

〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2-30 メジカルビュー社内

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

*演題受付後、10営業日以内に事務局より「受付メール」をお送りいたします。連絡がない場合は事務局に問合せください。

*応募演題は周産期学シンポジウム運営委員会による書類選考、一次選考、最終選考を行い、2024年6月までに第43回 周産期学シンポジウム口演演題として決定する予定です。

- *書類選考：演題応募者には、2023年11月17日（金）までに書類選考結果をお知らせいたします。
- *一次選考：書類選考通過者は、2023年12月8日（金）の一次選考会（東京）に出席いただきます。一次選考会では、スライドを用いたプレゼンテーション（7分間：時間を厳守してください）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。一次選考会終了後、選考結果をお知らせいたします。応募者が出席できない場合は、演題が不採択となることがあります。
- *最終選考：一次選考通過者は、2024年6月の最終選考会（東京）で再度スライドを用いたプレゼンテーション（10分間：時間を厳守して下さい）と、運営委員との質疑応答（8分間）を行います。最終選考会終了後、最終結果をお知らせいたします。
- *演題採択された場合、シンポジウム本番の発表時間は20分間程度となる予定です。

【「応募用紙.xlsx」への入力に関する注意】

必要事項はすべて入力ください。

問合せ先：日本周産期・新生児医学会事務局

<https://www.jspnm.com>

TEL：03-5228-2074 FAX：03-5228-2104 E-mail：info@jspnm.org

【利益相反に関する自己申告書の提出】

日本周産期・新生児医学会が定めた利益相反指針及び指針細則に則り、「発表者の利益相反自己申告書（様式2-1）」の提出が必要となります。

原則として利益相反の有無は演題の採択には影響しません。

演題が採択された場合、利益相反状態の有無にかかわらず、発表演題の最初のページ（スライド）に利益相反状態を明記してください。記載例を以下に示します。

◆利益相反状態にない場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態はありません。

◆利益相反状態にある場合の記載例

筆頭演者氏名：○○○○

研究責任者：○○○○

所 属：△△△△産婦人科

私の今回の演題に関連して、開示すべき利益相反状態は以下のとおりです。

- ・報酬額/ ○○製薬株式会社
- ・講演料/ □□製薬株式会社
- ・原稿料/ ◇◇製薬株式会社
- ・研究費・助成金（寄付講座所属）/ 株式会社××

2023年2月

日本周産期・新生児医学会
周産期学シンポジウム運営委員会